

札幌市

高齢社会に関する意識調査

報告書（概要版）

目次

1	「高齢社会に関する意識調査」の概要	1
2	住まい・家族構成等	2
3	生活状況や社会参加	6
4	心身の状況	9
5	保健・福祉施策	13

1

高齢社会に関する意識調査の概要

〔調査の目的〕

本調査は、幅広い世代の方々の高齢社会に対する意識や高齢者福祉施策全般に関する考え方を把握・整理し、令和3年度を始期とする新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定や各高齢者施策、介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

〔調査対象〕

令和元年12月1日現在、札幌市内に在住する65歳以上の市民5,000人、40～64歳の市民1,500人の計6,500人を無作為に抽出した。

〔調査方法〕

郵送による調査票の発送・回収。

〔調査期間〕

令和元年12月1日 ～ 令和元年12月24日（調査基準日：令和元年12月1日）

〔回収状況〕

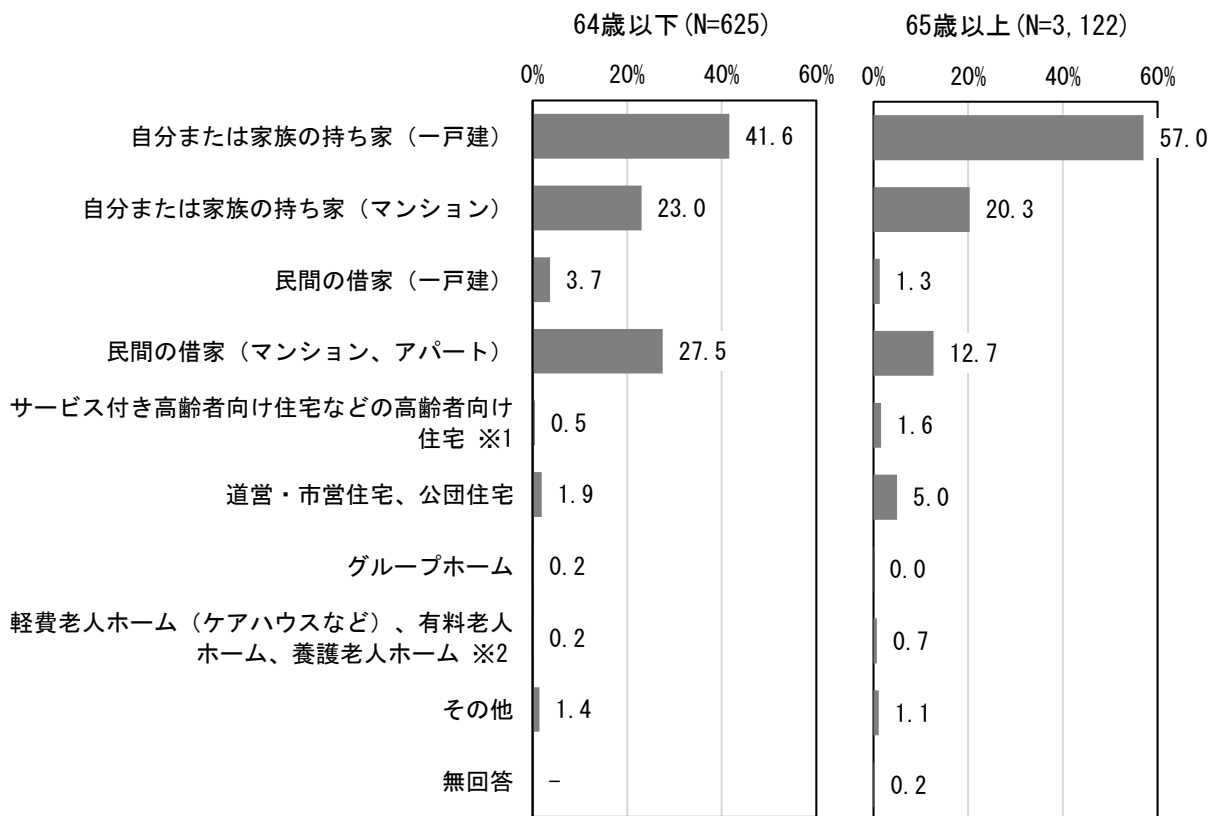
発送数	6,500件
回収数	3,778件（58.1%）
有効回収数	3,768件（58.0%）

2

住まい・家族構成等

◆ 現在の生活場所

現在の生活場所は、64歳以下・65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く、64歳以下は41.6%、65歳以上は57.0%となっている。次いで、64歳以下は「民間の借家（マンション、アパート）」（27.5%）、「自分または家族の持ち家（マンション）」（23.0%）となっており、65歳以上は「自分または家族の持ち家（マンション）」（20.3%）、「民間の借家（マンション、アパート）」（12.7%）となっている。

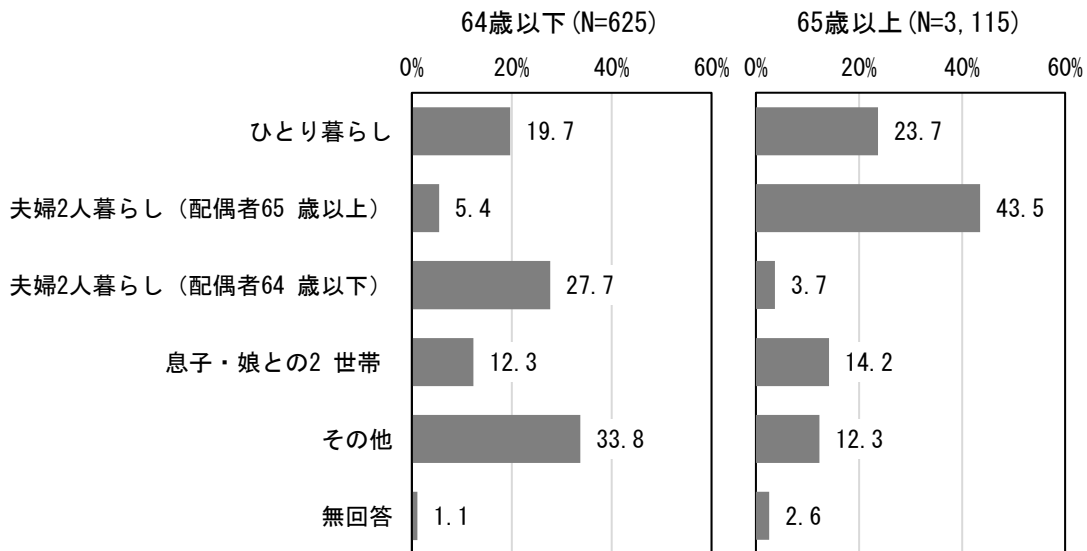


※1 「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談サービスなど、高齢者を支援するサービスを提供するバリアフリー構造の住宅をいう。

※2 「軽費老人ホーム」とは、自立した日常生活を営むことに不安のある、家族の援助を受けることが困難な方が入所する施設であり、ケアハウス、A型、B型の3種類がある。

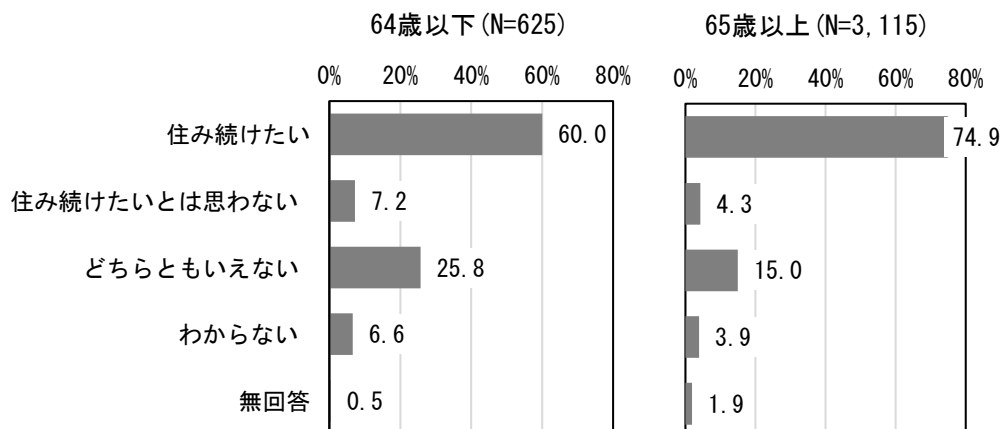
◆ 家族構成

世帯の家族構成についてたずねたところ、64歳以下は「その他」が最も多く33.8%、65歳以上は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多く43.5%となっている。一方、「ひとり暮らし」は、64歳以下は19.7%、65歳以上は23.7%となっている。



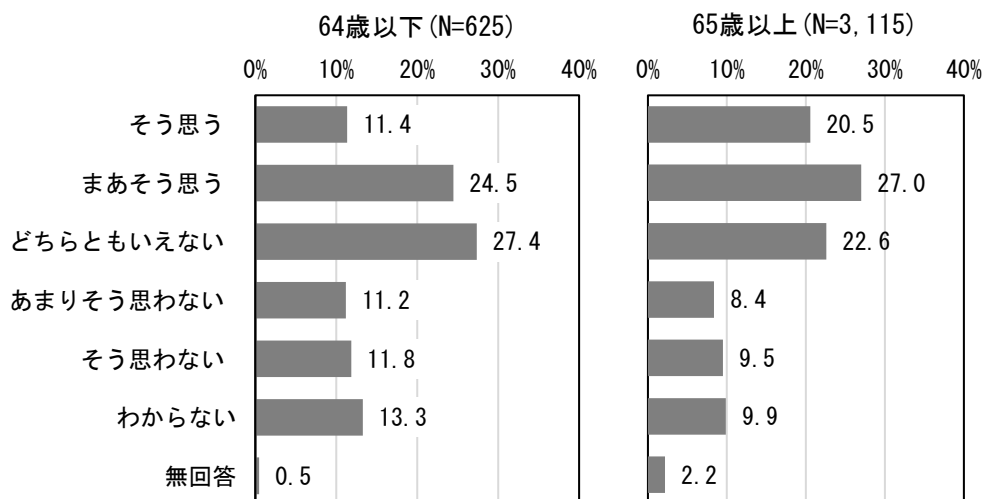
◆ 現在住んでいる地域に住み続けたいか

今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うかをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けたい」が最も多く、64歳以下は60.0%、65歳以上は74.9%となっている。一方、「住み続けたいとは思わない」は、64歳以下は7.2%、65歳以上は4.3%となっている。



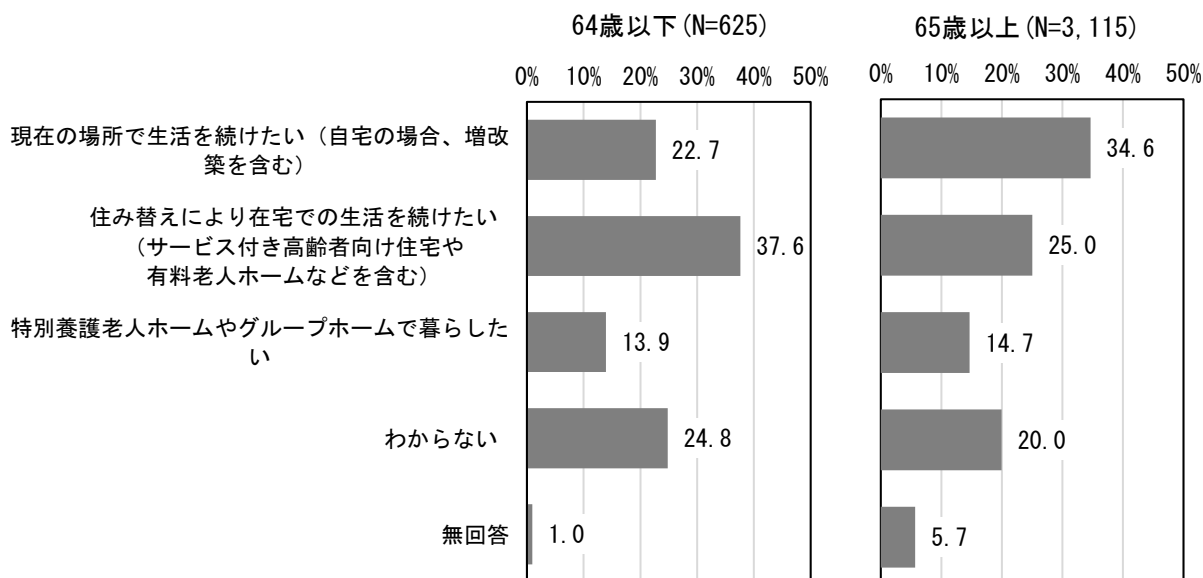
◆ 住み慣れた地域で暮らし続けるための環境が整っているか

札幌市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思うかをたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は35.9%、65歳以上は47.5%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は23.0%、65歳以上は17.9%となっている。



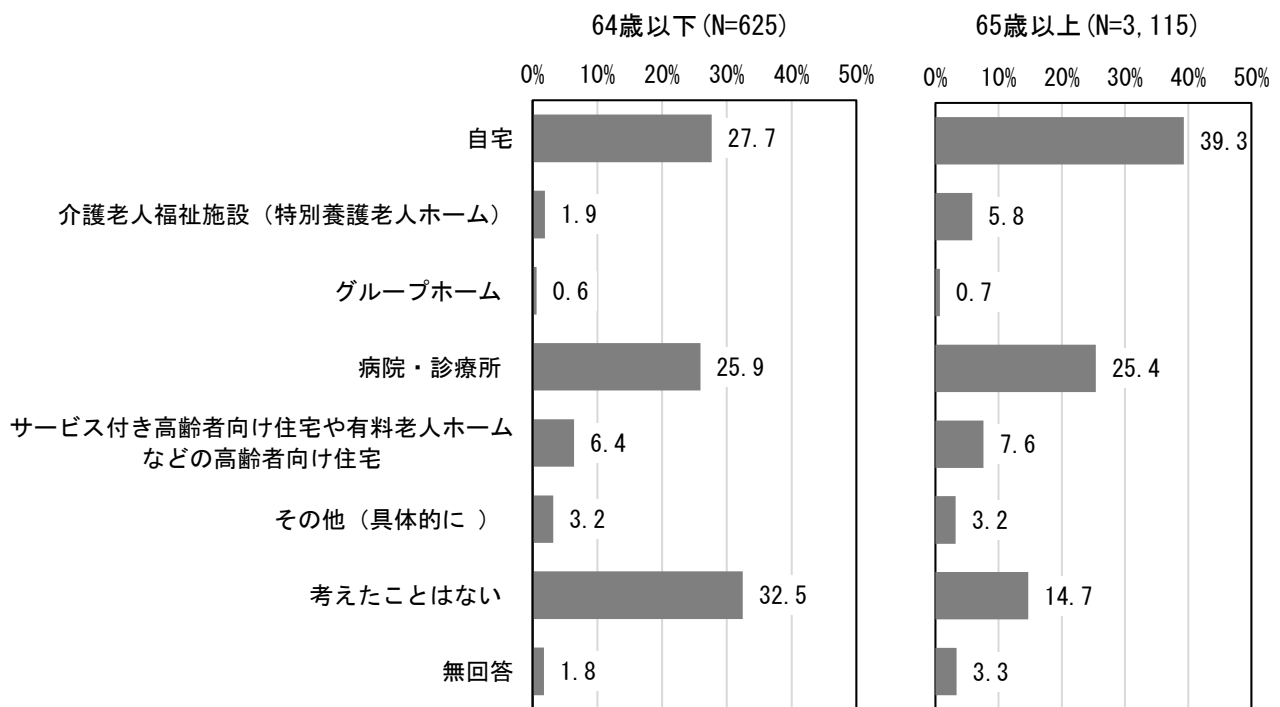
◆ 体が弱くなった場合の生活場所

身体が弱くなったりした場合の生活場所についてたずねたところ、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(37.6%)が最も多く、次いで、「わからない」(24.8%)となっている。65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」(34.6%)が最も多く、次いで、「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(25.0%)となっている。



◆ 最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所についてたずねたところ、64歳以下は「考えたことがない」が最も多く32.5%、65歳以上は「自宅」が最も多く39.3%となっている。次いで、64歳以下は、「自宅」(27.7%)、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」(6.4%)となっており、65歳以上は、「病院・診療所」(25.4%)、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」(7.6%)となっている。

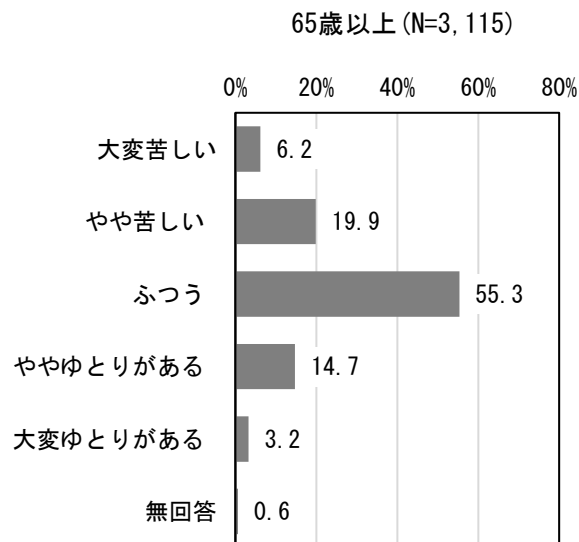


3

生活状況や社会参加

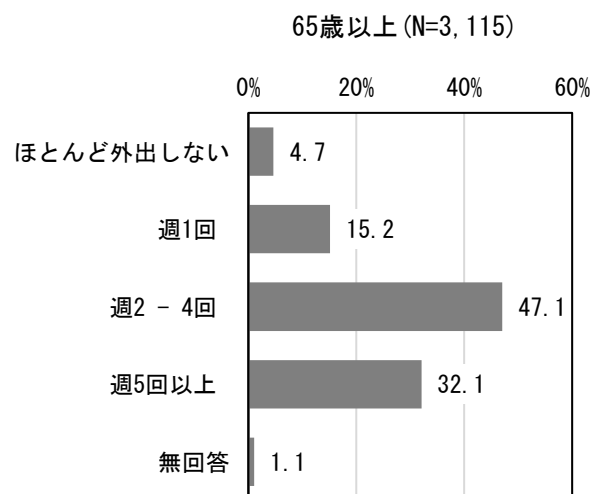
◆ 経済的ゆとり感【65歳以上のみ】

現在の経済的な暮らしの状況についてたずねたところ、「ふつう」(55.3%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(19.9%)、「ややゆとりがある」(14.7%)となっている。



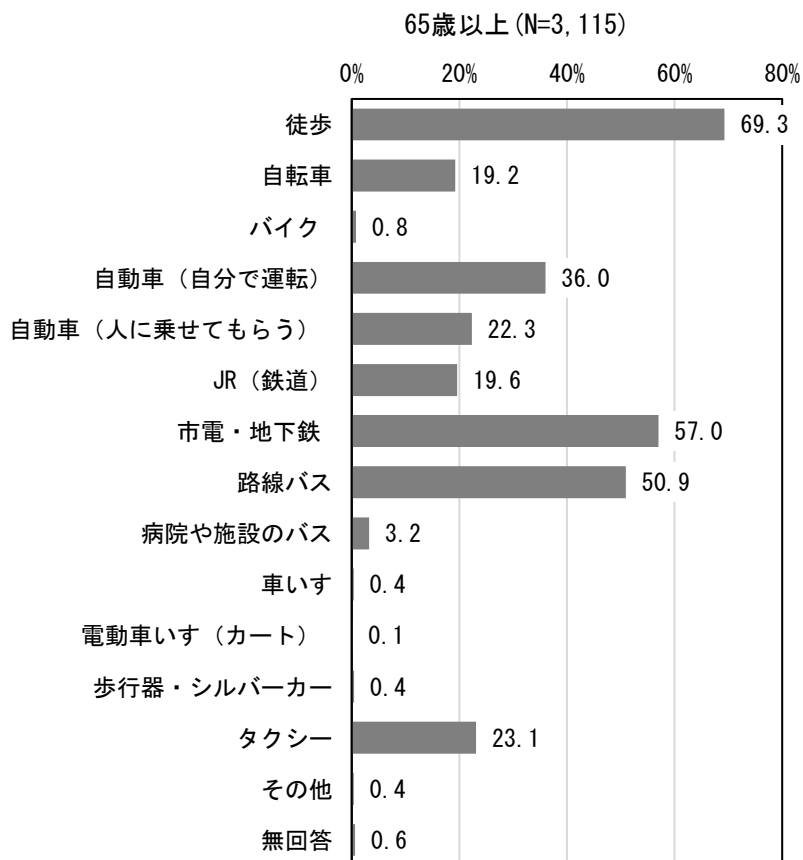
◆ 外出頻度について【65歳以上のみ】

週に1回以上は外出しているかをたずねたところ、「週2 - 4回」(47.1%)が最も多く、次いで「週5回以上」(32.1%)、「週1回」(15.2%)となっている。



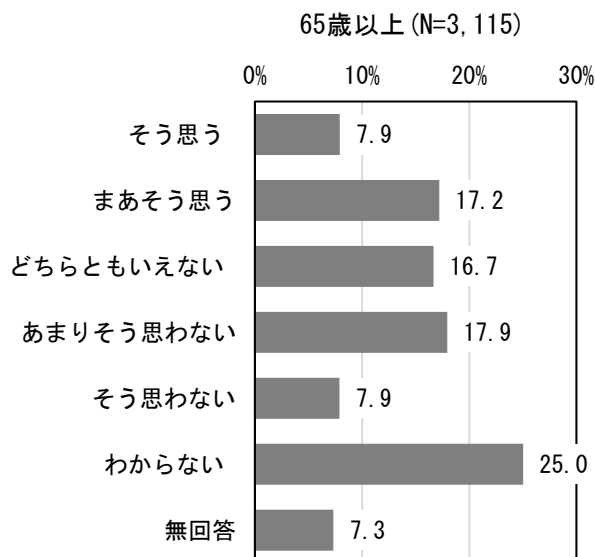
◆ 外出する際の移動手段【65歳以上のみ】

外出する際の移動手段についてたずねたところ、「徒歩」(69.3%)が最も多く、次いで「市電・地下鉄」(57.0%)、「路線バス」(50.9%)となっている。



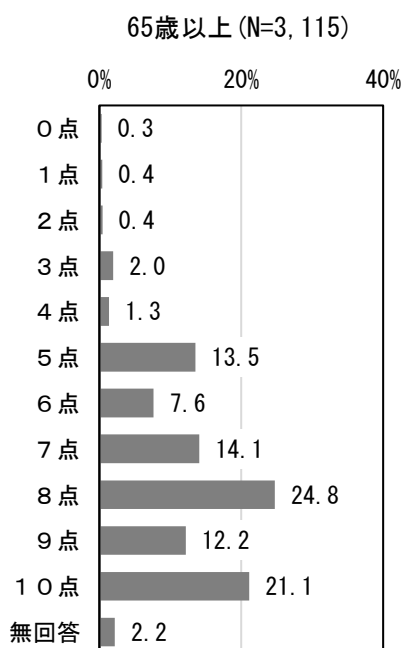
◆ 積極的に社会参加できる機会があるか【65歳以上のみ】

札幌市は、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思うかをたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が25.1%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は25.8%となっている。



◆ 現在のどの程度幸せか【65歳以上のみ】

現在の幸福度についてたずねたところ、「8点」(24.8%)が最も多く、次いで「10点」(21.1%)、「7点」(14.1%)となっている。

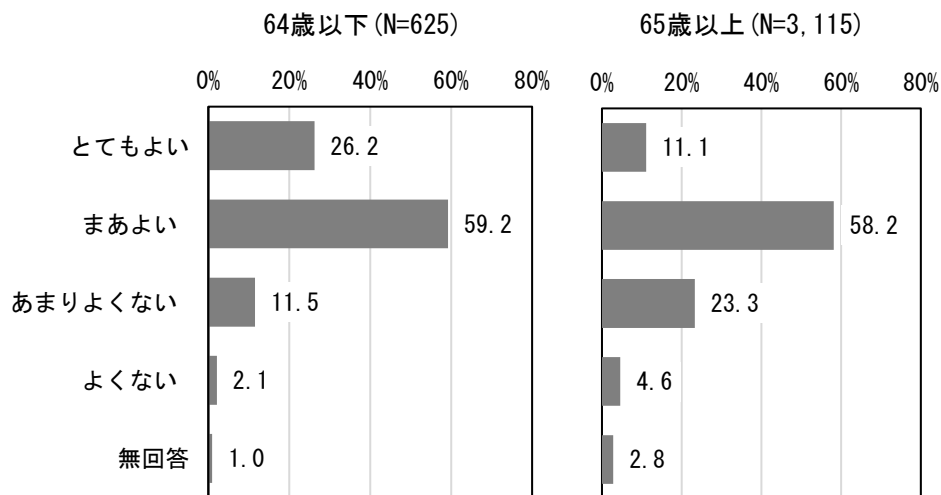


4

心身の状況

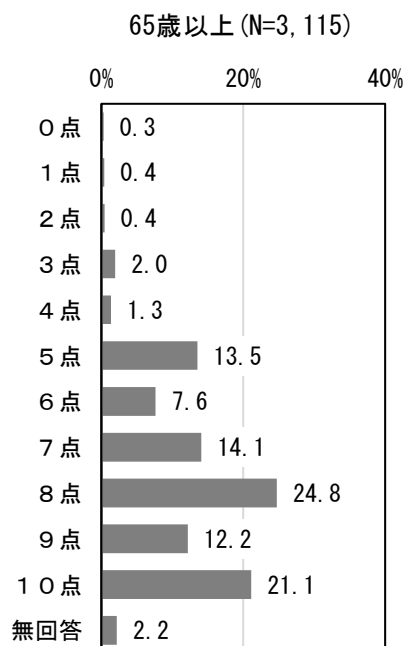
◆ 健康だと思うか

健康状態についてたずねたところ、「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合が、64歳以下は85.4%、65歳以上は69.3%と、共に半数を超えている。一方、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は、64歳以下は13.6%、65歳以上は27.9%となっている。



◆ 現在のどの程度幸せか【65歳以上のみ】

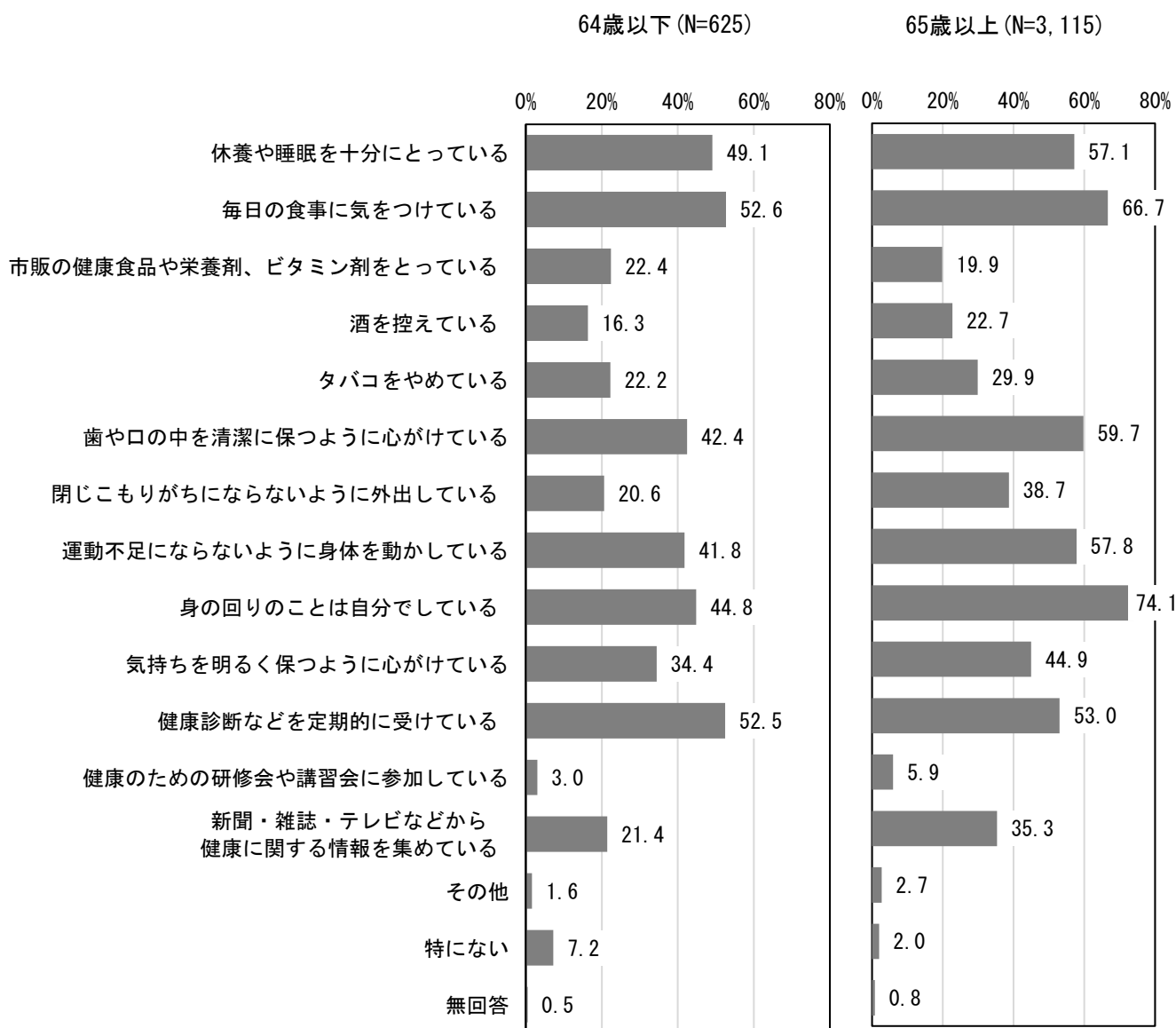
現在の幸福度についてたずねたところ、「8点」(24.8%)が最も多く、次いで「10点」(21.1%)、「7点」(14.1%)となっている。



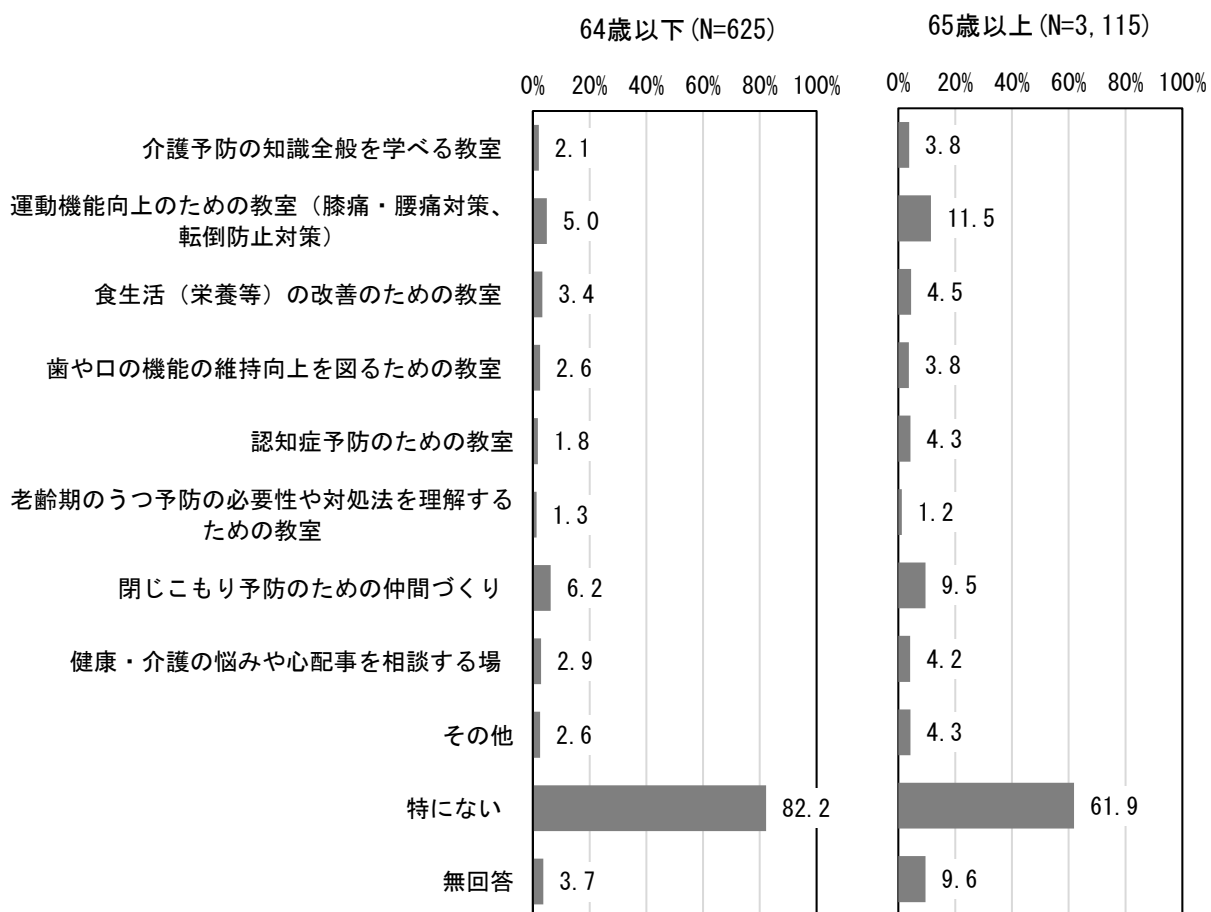
◆ 健康維持のため気をつけていること

(複数回答)

現在、健康維持のために気をつけていることをたずねたところ、64歳以下は「毎日の食事に気をつけている」(52.6%)が最も多く、次いで、「健康診断などを定期的に受けている」(52.5%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(49.1%)となっており、65歳以上は「身の回りのことは自分でしている」(74.1%)が最も多く、次いで、「毎日の食事に気をつけている」(66.7%)、「歯や口の中を清潔に保つように心がけている」(59.7%)となっている。



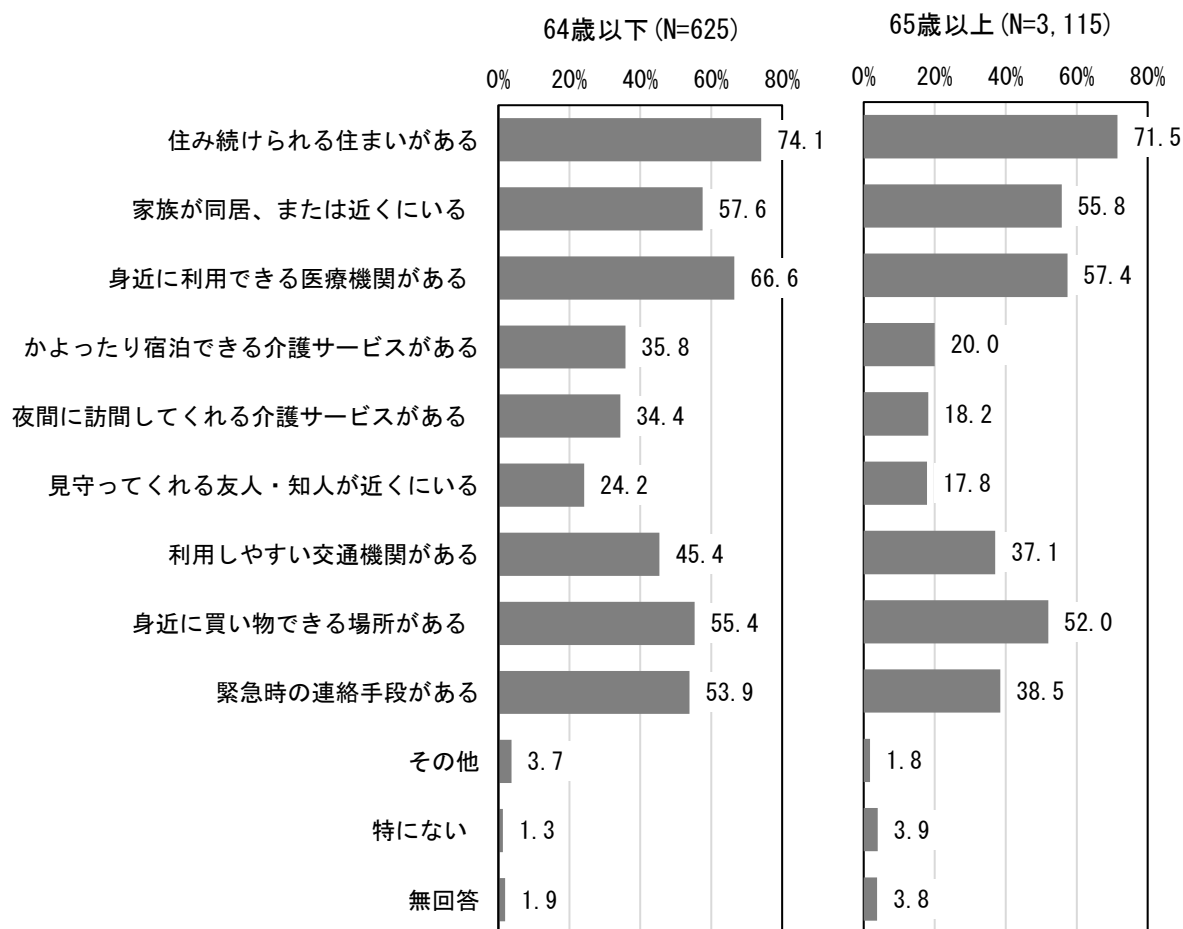
介護予防のために利用しているものをたずねたところ、64歳以下は「閉じこもり予防のための仲間づくり」(6.2%)が最も多く、次いで、「運動機能向上のための教室(膝痛・腰痛対策、転倒防止対策)」(5.0%)、「食生活(栄養等)の改善のための教室」(3.4%)となっており、65歳以上は「運動機能向上のための教室(膝痛・腰痛対策、転倒防止対策)」(11.5%)が最も多く、次いで、「閉じこもり予防のための仲間づくり」(9.5%)、「食生活(栄養等)の改善のための教室」(4.5%)となっている。一方、「特にない」と答えた割合は、64歳以下は82.2%、65歳以上は61.9%となっている。



◆ 介護が必要になったときに、在宅生活に必要なこと

(複数回答)

介護が必要になったとき、在宅で暮らし続けるためには何が必要かについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けられる住まいがある」が最も多く、64歳以下は74.1%、65歳以上は71.5%となっている。次いで、64歳以下は「身近に利用できる医療機関がある」(66.6%)、「家族が同居、または近くにいる」(57.6%)となっており、65歳以上は、「身近に利用できる医療機関がある」(57.4%)、「家族が同居、または近くにいる」(55.8%)となっている。



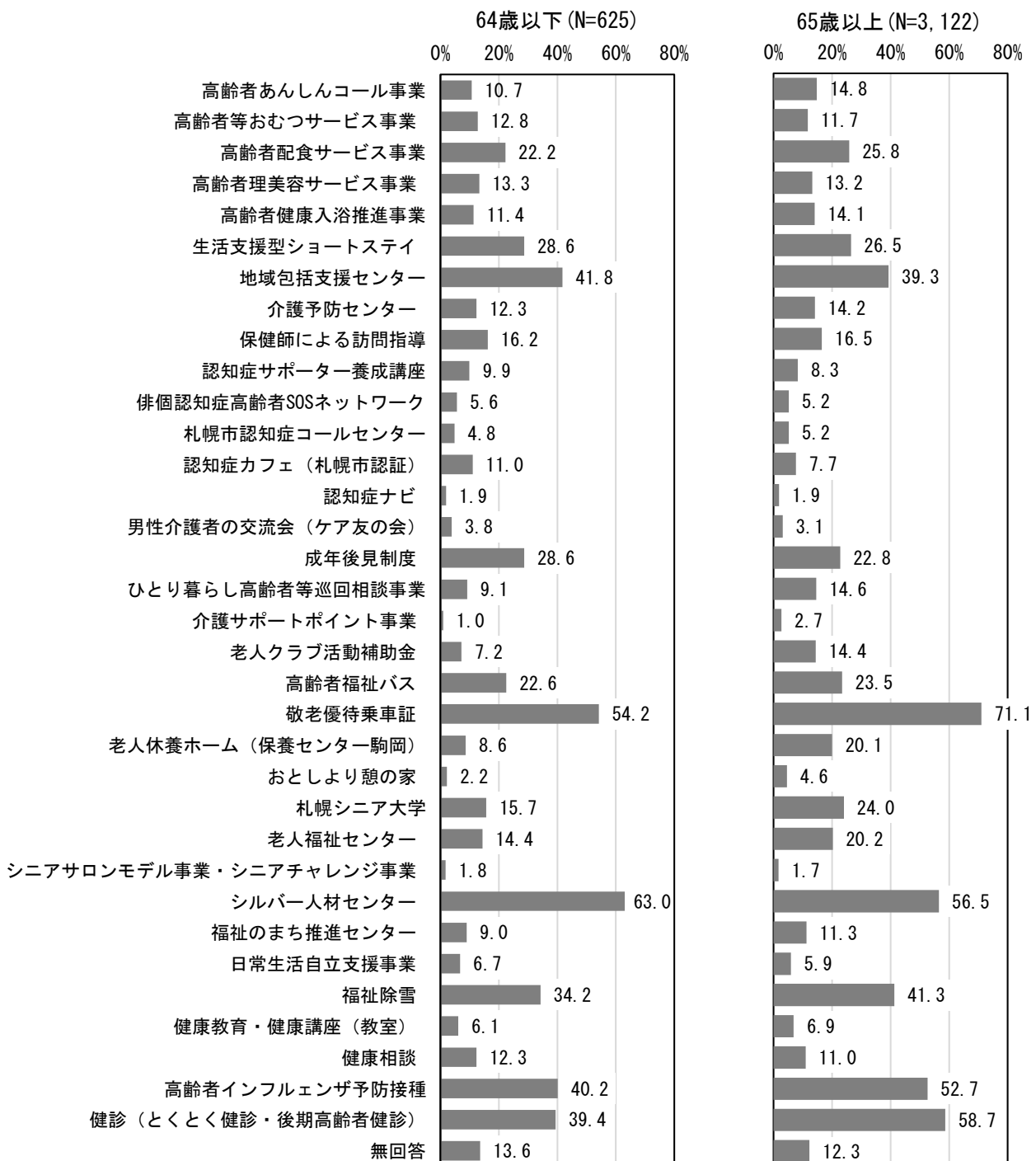
5

保健・福祉施策

◆ 知っている保健・福祉サービス

(複数回答)

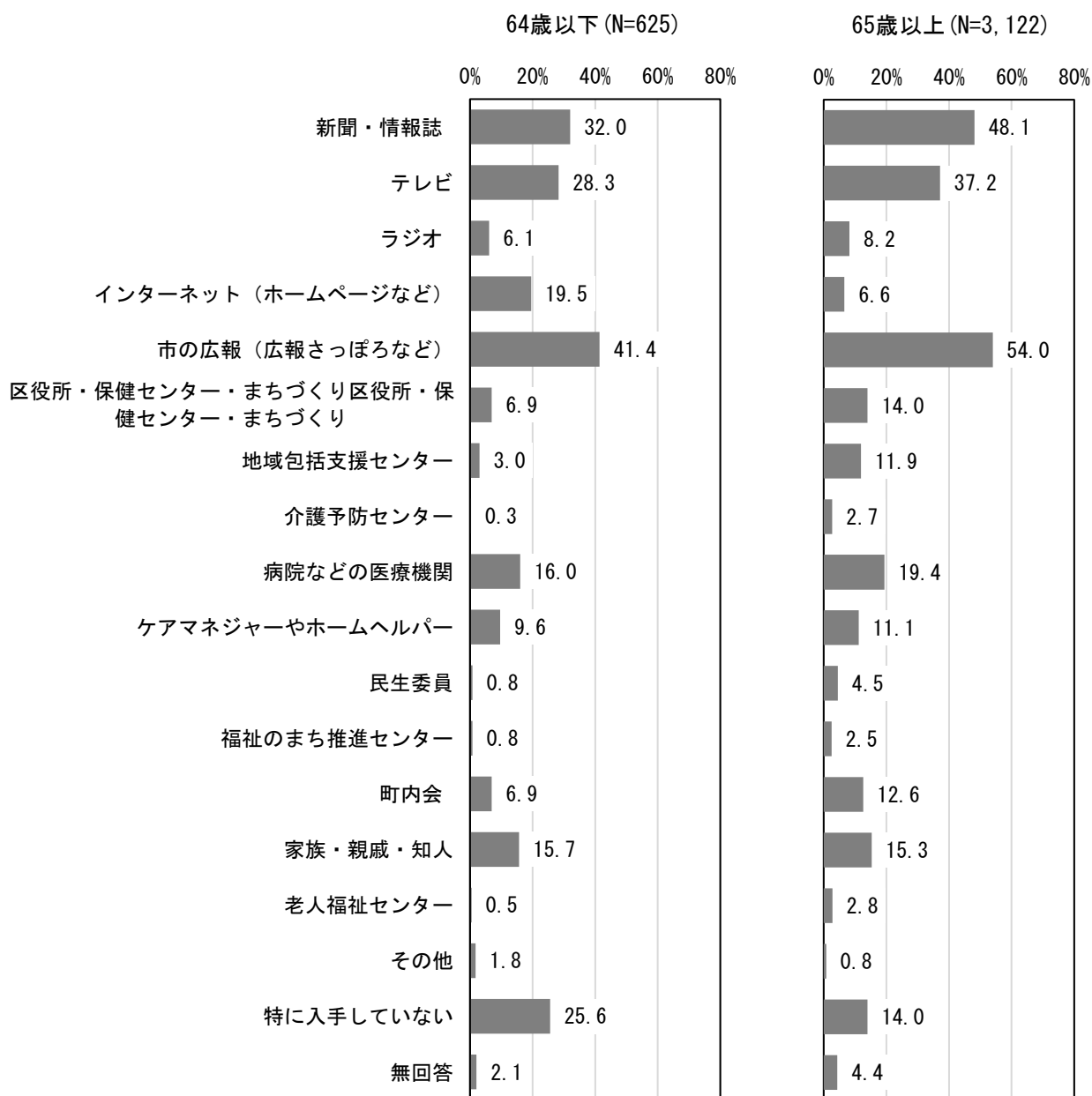
札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした保健・福祉サービスなどで知っているものがあるかたずねたところ、64歳以下は「シルバー人材センター」(63.0%)が最も多く、次いで、「敬老優待乗車証」(54.2%)、「地域包括支援センター」(41.8%)となっており、65歳以上は、「敬老優待乗車証」(71.1%)が最も多く、次いで、「健診(とくとく健診・後期高齢者健診)」(58.7%)、「高齢者インフルエンザ予防接種」(52.7%)となっている。



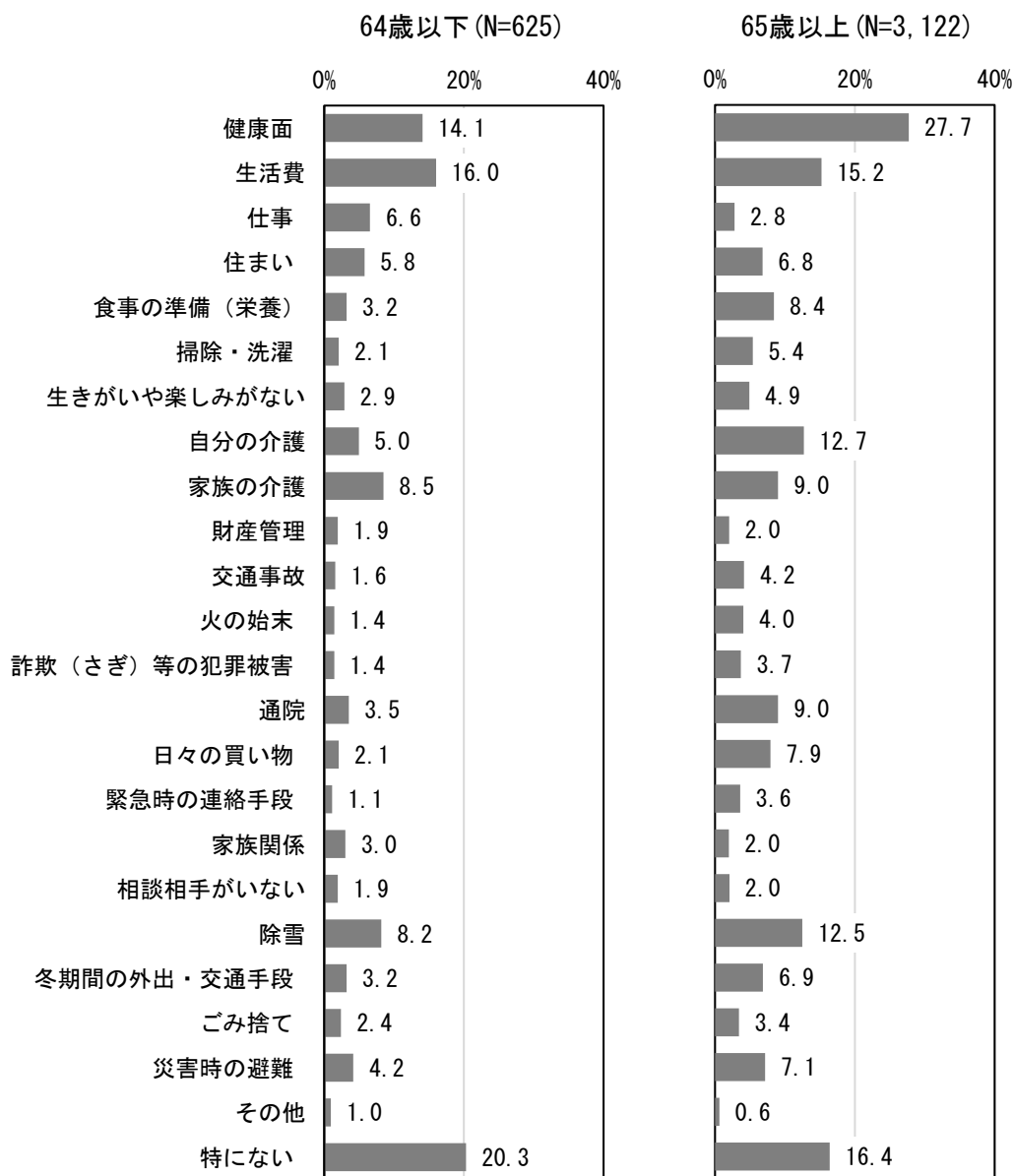
◆ 情報の入手先

(複数回答)

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているかたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「市の広報（広報さっぽろなど）」が最も多く、64歳以下は41.4%、65歳以上は54.0%となっている。次いで、64歳以下は「新聞・情報誌」（32.0%）、「テレビ」（28.3%）となっており、65歳以上も同様に、「新聞・情報誌」（48.1%）、「テレビ」（37.2%）となっている。



現在困っていることについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(16.0%)が最も多く、次いで、「健康面」(14.1%)、「家族の介護」(8.5%)となっており、65歳以上は、「健康面」(27.7%)が最も多く、次いで、「生活費」(15.2%)、「自分の介護」(12.7%)となっている。

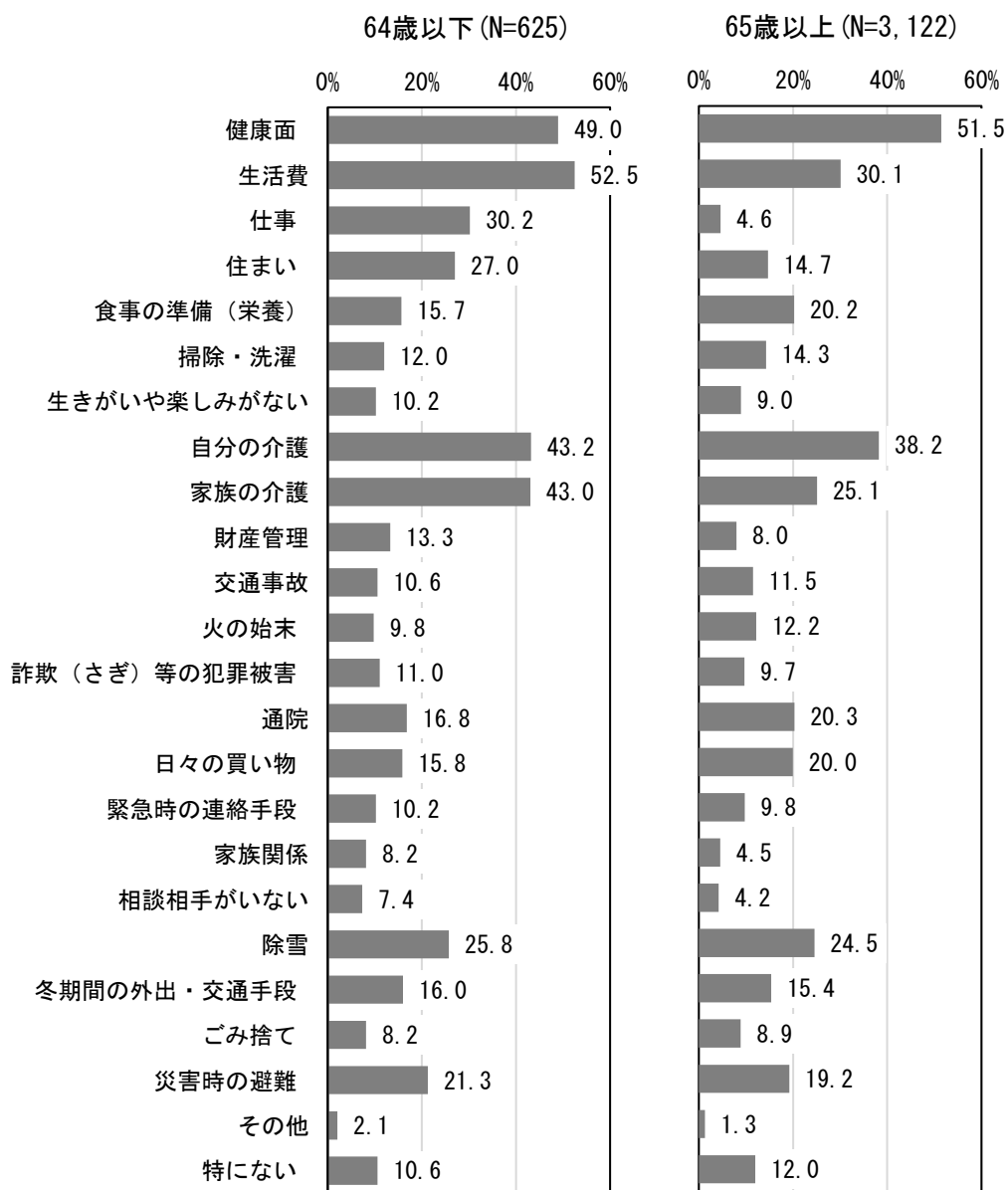


※無回答を除く選択肢を表示

◆ 不安に思うこと

(複数回答)

将来に向け不安に思うことについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(52.5%)が最も多く、次いで、「健康面」(49.0%)、「自分の介護」(43.2%)となっており、65歳以上は、「健康面」(51.5%)が最も多く、次いで、「自分の介護」(38.2%)、「生活費」(30.1%)となっている。



※無回答を除く選択肢を表示

◆ 困っていること、不安に思うことの相談先

(複数回答)

困っていることや不安に思うことの相談先についてたずねたところ、64歳以下「家族」(55.4%)が最も多く、次いで「知人」(32.3%)、「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(23.0%)となっており、65歳以上は「知人」(52.4%)が最も多く、次いで、「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(26.6%)、「ケアマネジャー」(24.5%)となっている。

